UENO Toshihiko; uenot_gosudarstvo@yahoo.co.jp; http://www.geocities.jp/collegelife9354/index.html

2. 日露開国交渉

1. プチャーチン使節の訪日

1843 年 7 月 10 日（露暦は－12 日）　海軍少将エフフィーミー・ワシーリエヴィチ・プチャーチン Евфи́мий Васи́льевич Путя́тин（1803 年 11 月 20 日～1883 年 10 月 28 日）のシベリア委員会への意見書

プチャーチン

アヘン戦争後の 1842 年の南京条約締結を踏まえ、英国との競争に負けないよう全権代表を中国に軍艦で派遣し、あわせてサハリン島などの探検と日本との交渉の再開を提案。「レザーノフ使節の場合と異なり、船を直接に首都の江戸の港に入れれば成功がより期待できるように思える。長崎ではオランダ商館の商人が交渉を妨害するべく万策を尽くすだろう。」ニコライ 1 世は提案を受け入れ、8 月 28 日、日本皇帝宛親書に署名したが、対英政策で慎重な外相・蔵相に反対され、派遣延期となる。

1852 年 3 月　艦隊を派遣し日本に開国を求める計画が米国にあることがわかる。

5 月　ロシア、日本への使節派遣を決定し、プチャーチンを使節に選任。

10 月 19 日　プチャーチン、パルラダ Палла́да 号でクロンシュタット港を出港し、英国ポーツマス港に向かう。

11 月 24 日　米国、ペリー艦隊、日本へ向け出発。

1853 年 1 月 30 日　ロシア、プチャーチン艦隊、日本へ向け英国ポーツマス港を出発（英国で船を調達）。

3 月 11 日（露歴 2 月 27 日）　「日本との交渉についてのプチャーチン宛外務省追加訓令 730 号」

通商上の利益の達成こそ真に重要であるので国境問題については寛大でよい。つまりクリル諸島のうち、ロシアに属する最南端はウルップ島でよい。

そのほか、日本の国法に従い、江戸ではなく長崎に入港せよとの指示を含む（もと長崎商館医師でドイツ人シーボルトの提案）。

夏　プチャーチン艦隊、喜望峰を周り、シンガポール、香港を経由、小笠原諸島父島二見港に到着し、東洋艦隊の 3 隻と合流して、パルラダ号を旗艦とする 4 隻の艦隊を編成。このとき追加訓令を受領。

資料：「日本との交渉についてのプチャーチン宛外務省追加訓令 730 号」[1]

Из утверждённой императором Николаем I 24 февраля 1853 г. дополнительной инструкции МИД России Е.В. Путятину о переговорах с японцами No. 730 от 27 февраля 1853 г.

皇帝ニコライ 1 世により 1853 年 2 月 24 日付で承認された「日本との交渉についての E. B. プチャーチン宛ロシア外務省追加訓令」1853 年 2 月 27 日付第 730 号

Что касается до самих писем к Губернатору острова Нагасаки[2] и в Верховный Японский Совет[3], которые при сем к Вашему Превосходительству препровождаются в запечатанных пакетах с вложенными внутрь оных переводами

[1] АВПРИ, ГА, 1-9, оп. 8, д. № 17, ч. 1, ЛЛ. 214-216 об. 218-218 об. なお、АВПРИ は Архив внешней политики Российской Империи（ロシア帝国外交文書）の略。ГА は Государственный архив（国立公文書館）の略。現代ロシア語の原文は、Руниверс の以下のページを参照（https://runivers.ru/doc/d2.php?CENTER_ELEMENT_ID=147030）。また、在ロシア日本大使館ホームページの以下のページでも見ることができる（https://www.ru.emb-japan.go.jp/itpr_ru/1855.html#6）。

[2] 直訳は「長崎島知事」であるが、事実に即して「長崎奉行」と訳す。

[3] 直訳は「日本最高会議」であるが、事実に即して「老中」と訳す。

на голландском языке, то по содержанию письма в Верховный Совет, яко главного, Министерство Иностранных Дел долгом считает изъяснить следующее. 長崎奉行および老中宛書簡はオランダ語訳を同封して封印した行嚢にて閣下宛に送付されているが、より重要な老中宛書簡の内容につき、外務省は以下の通り説明しておくべきものと考える。

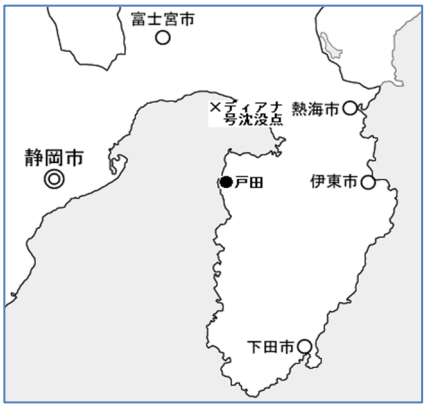
В сем письме, с коего у сего же прилагается точная копия как и с письма к Губернатору, кроме предложения японцам о вступлении с нами в торговые сношения, - о дозволении нашим купеческим судам (а также, по надобности, и военным) приставать в те порты Японии, которые будут для сего назначены, мы предъявляем также требование об установлении границ между Российскими и Японскими владениями.この書簡は、長崎奉行宛ての書簡と同様、その写しを別添してあるが、そこにおいては、我々との通商関係開設に関する日本側への提案、および追って指定する我々の商船（必要があれば軍艦も）に対する日本の港への寄港許可に関する提案の他、露日領土間の国境画定についての要求も提起している。Мысль теперь же приступить к пограничному вопросу показалась нам весьма основательною: через это можно, так сказать, заставить Японцев по необходимости войти с нами в переговоры.国境問題に直ちに取り掛かるとの考えは、根拠のあるものと思われるが、このことを通じ、いわば日本人が我々と交渉に入ることを余儀なくされるからである。От прочего они могли бы, следуя своим обычным правилам, тотчас же уклониться и дать ответ отрицательный, но предъявление нашего желания о разъяснении границ есть такого рода требование, от коего им трудно отказаться.他の場合であれば、彼らは自らの慣習により直ちにこれを回避し、否定的な回答を出すであろうが、国境を明確にしたいとの我々の要望は、彼らにとり拒絶し難いものである。Самим этим вопросом мы можем побудить Японское Правительство к большей уступчивости.正にこの問題を用いることで、我々は幕府から大きな譲歩を引き出すことが出来る。

По сему предмету о границах наше желание быть по возможности снисходительными (не проронивая однако же наших интересов), имея в виду, что достижение другой цели, - выгод торговых, - для нас имеет существенную важность.この国境問題に関する我々の要望は、通商上の利益というもう一つの目的の達成が我々にとって本質的な重要性を持っているということを考慮すれば、（我々の利益を損なわない範囲で）可能な限り寛大なものであるべきである。Из островов Курильских южнейший, России принадлежащий, есть остров Уруп, которым мы и могли бы ограничиться, назначив его последним пунктом Российских владений, к югу, - так, чтобы с нашей стороны южная оконечность сего острова была (как и ныне она в сущности есть) границею с Японией, а чтобы с Японской стороны границею считалась северная оконечность острова Итурупа.クリル諸島のうち、ロシアに属する最南端はウルップ島であり、同島がロシア領の南方における終点と述べることで満足してよく、これにより（今日既に実際そうであるように）我が方は同島の南端が日本との国境となり、日本側は択捉島の北端が国境となる。Если бы, паче чаяния, Японское Правительство стало предъявлять свои права на сей остров, то Вы можете объяснить им, что о. Уруп на всех наших картах показывается принадлежащим России и что лучшим доказательством сей принадлежности есть то, что Российско-Американская Компания, имеющая в своём управлении Российская владения в Америке и в разных там морях, не только распоряжается Урупом наравне с прочими Курильскими нашими островами, но даже имеет там поселение, и вообще сей остров считается границею наших владений в Курильских островах.幕府が予想に反してウルップ島に対し自らの権利を主張する場合には、先方に対し、この島が我々のすべての地図中でロシア領と記載されていること、また、アメリカおよびその種々の水域におけるロシア領を管轄する露米会社が、他の我々のクリル諸島と同様ウルップ島を支配下に置き、更には住民すら有していることは、その帰属についての最良の証拠をなすものであり、一般にこの島はクリル諸島における我々の領土の境とみなされている旨を説明し得よう。

1853 年 7 月 8 日　米国ペリー艦隊（旗艦サスケハナ号以下 4 隻）、江戸湾・浦賀に入港。
8 月 22 日　プチャーチン長崎入港。宰相ネッセリローデの書簡の受け取りを要請

9 月 21 日　日本側、ネッセリローデ書簡を受け取る。
10 月 4 日　トルコ、ロシアに宣戦布告（クリミア戦争勃発）。
11 月 1 日　ロシア、トルコに宣戦布告。
11 月 8 日　筒井肥前守政憲、川路左衛門尉聖謨（としあきら）（1801 年 6 月 6 日～1868 年 4 月 7 日）、露西亜応接掛に任命され、長崎へ出立。
11 月 18 日　プチャーチン、いったん長崎を出港。
1854 年 1 月 3 日　プチャーチン、長崎に再入港。
1 月 18 日　プチャーチンと日本側全権・筒井肥前守政憲、副全権・川路左衛門尉聖謨との交渉開始。
2 月 5 日　第 1 次交渉終了し、プチャーチン、長崎出港。
2 月 21 日　クリミア戦争でロシア、英仏に宣戦布告。
3 月 28 日　英仏、ロシアに宣戦布告。
1854 年 3 月 31 日　日米和親条約締結、日本開国へ。
10 月 21 日　プチャーチン、ディアナ Диáна 号で、箱館入港。
11 月 8 日　プチャーチン、大坂湾に入る。幕府、下田回航を要請。
12 月 4 日　プチャーチン、下田入港。
12 月 22 日　日露、第 2 次交渉開始（下田玉泉寺）。
12 月 23 日　安政の東海大地震[4]（推定マグニチュード 8.4）起こる。この地震により、13 メートルの津波が下田港を襲い、ディアナ号損壊。下田はほぼ全滅（総戸数 856 戸のうち 813 戸流出、25 戸半壊）。
1855 年 1 月 19 日　ディアナ号を西伊豆の戸田（へだ）で修理することになり、戸田沖まで曳航するも暴風雨で海が荒れて漂流、宮島村（現富士市三四軒屋）沖で沈没。宮島村村民も安政の東海大地震の被害を受けていたが、乗組員を救助。
1 月 24 日　幕府、戸田村（戸数約 600 戸、人口約 3000 人）でのロシア艦建造を許可。同日、ロシア使節団約 500 人、戸田村に到着。プチャーチン提督、幕僚、士官用宿舎は宝泉寺、下士官用宿舎は本善寺と決定。ロシア人の設計・造船指導により西洋式帆船（排水量約 120 トン）の建造[5]が戸田の船大工の手により始まる。
1 月 31 日　交渉再開（下田）。
2 月 7 日　日魯通好條約（日露和親条約・下田条約）調印。

川路聖謨



ディアナ号沈没地点と下田・戸田

ヘダ号の模型

[4] この地震の起こった日は旧暦では嘉永 7 年 11 月 4 日であり、安政元年は旧暦 11 月 27 日から始まるが、一般にこの地震を「安政の東海大地震」と呼んでいる（なお、翌 1855 年 11 月 11 日・旧暦 10 月 2 日の「安政の大地震」とは別だが、混同している文書が多い）。

[5] 近代的西洋式帆船の建造はヘダ号が日本初ではない。ヘダ号の建造より 6 年早い 1849 年（嘉永 2 年）、幕府が浦賀で 2 本マストの小型西洋式帆船蒼隼（そうじゅん）丸を試作、1854 年 5 月に同じく浦賀で日本最初の西洋型大型軍艦鳳凰丸（排水量約 530 トン、3 本マスト）を竣工させた。また、薩摩藩も 3 本マストの昇平丸（排水量約 300 トン）を鳳凰丸より半年遅れて完成させた。水戸藩も江戸石川島に造船所を設け、鳳凰丸よりも大きい 3 本マストの旭日丸を完成させている。

5 月 8 日　プチャーチン、ヘダ号で出港。
1856 年 12 月 7 日　日露和親条約、批准書交換。

2.「日露和親条約」[6]第 2 条問題

2.1. 交渉時の言語

日本側：ロシア語を解する者なし。漢文を解する者あり。オランダ語を解する者あり。
ロシア側：中国語を解する者あり（初代駐日総領事ゴシケヴィッチ）。オランダ語を解する者あり。
交渉は主としてオランダ語となる。

2.2. 条約文の検討

条約文の検討は、オランダ語正文を作成し、日本側はその日本語訳、ロシア側はロシア語訳を検討。またオランダ語正文から漢文を作成し、双方でチェック。

2.3. 第 2 条における脱字と誤訳

(1)漢文における脱字（カッコの部分）

「嗣後魯西亜國與日本國之境、応在厄土呂布、蔚布両島間、其厄土呂布全島属日本、蔚布全島及其（他）北方久利留諸島属魯西亜、至哈喇土嶋則日本與魯西亜不分疆域須如往規」

「今より後日本国と魯西亜国との境、エトロプ島とウルップ島との間にあるへし、エトロプ全島は日本に属し、ウルップ全島及び其の（他の）北方のクリル諸島は魯西亜に属す、カラフト島に至りては日本国と魯西亜国との間において界を分たす之迄仕来之通たるへし」

(2)誤訳

下線部を「ウルップ全島夫より北の方クリル諸島は」と誤訳

資料「日本國魯西亞國通好條約」（1855 年 2 月 7 日）第二條

【オランダ語正文[7]】

ARTIKEL 2　Van nu af zal de grens tusschen de eilanden Itoroep (Iedorop) en Oeroep zyn. Het geheel eiland Itoroef behoort aan Japan en het geheel eiland Oerop, met de overige Koerilsche eilanden, ten noorden, behoren tot Russische bezittingen. Wat het eiland Krafto (Saghalien) aangaat, zoo blyft het ongedeeld tusschen Rusland en Japan, zoo als het tot nu toe geweest.

【オランダ語正文からの日本語訳[8]】

これから後、境界はイトルプ（イェドロプ）島とウロプ島の間にあるべし。イトルプ全島は日本に属しそしてウロプ全島は残りの、北のほうの、クリル諸島とともに、ロシアの所有に属する。カラフト（サハリン）島について言えば、従来どおりロシアと日本との間に不分割のままにとどまる。

【ロシア語[9]】

---

[6] 正式には「日本國魯西亞國通好條約」。「日魯通好条約」、または調印された土地の地名にちなんで「下田条約」と呼ばれることがある。なお、正文はオランダ語である。オランダ語正文、ならびに当時のロシア語および日本語の訳文は、外務省記録局『締盟各国条約彙纂』第 1 編、1889 年、586 頁（国立国会図書館近代デジタルライブラリー https://dl.ndl.go.jp/pid/798309/1/309）を参照。

[7] 交渉時、日本側にはロシア語を解する者が、ロシア側には日本語を解する者が、それぞれいなかったため、交渉は主としてオランダ語で行われ、双方が合意した条約文はオランダ語の条約文だけである。オランダ語の条約文は、村山七郎『クリル諸島の文献学的研究』三一書房、1987 年、180 頁も参照。

[8] オランダ語からの日本語訳は村山による（同上）。

[9] ロシア語については、前掲『締盟各国条約彙纂』のほか、『ロシア帝国法令全書』第 2 集第 32 巻第 1 部、1857 年の項、280 頁、法令番号第 31699 号も参照（Полное собрание законов Российской Империи. Собрание Второе. Том XXXII. Отделение 1. 1857 г., с. 280, № 31699.）。『ロシア帝国法令全書』電子版は、ロシア国立図書館電子ライブラリー（https://nlr.ru/elibrarypro）からアクセスできる。該当ページは以下の通り（https://nlr.ru/e-res/law_r/show_page.php?page=280&root=2/32/1/）。

Статья II Отныне границы между Россией и Японией будут проходить между островами Итурупом и Урупом. Весь остров Итуруп принадлежит Японии, а весь остров Уруп и прочие Курильские острова к северу составляют владение России. Что касается острова Карафуто [Сахалина], то он остаётся неразделённым между Россией и Японией, как было до сего времени.

【日本語[10]】

第二條　今より後日本國と魯西亞國との境「ヱトロプ」島と「ウルップ」島との間に在るへし「ヱトロプ」全島は日本に屬し「ウルップ」全島夫より北の方「クリル」諸島は魯西亞に屬す「カラフト」島に至りては日本國と魯西亞國との間に於て界を分たす是まて仕來の通たるへし

【ロシア語からの日本語訳[11]】

第２条　これから後、日本とロシアとのあいだの境界はイトルプ島とウルップ島とのあいだを通ることとなろう。イトルプ全島は日本に属し、ウルップ全島および北方のその他のクリル諸島は、ロシアの領土となる。カラフト（サハリン）島については、従来どおりロシアと日本とのあいだで不分割のままとする。

2.4.「サンフランシスコ平和条約」[12]締結以後の「千島列島」の範囲についての論争の原因

サンフランシスコ平和条約この条項は極めてシンプルに、日本による千島列島および樺太南半部の放棄を規定している。しかし、「千島列島」の範囲を明確に規定していないため、誤訳された「日露和親条約」の日本語訳をもとに、「日露和親条約締結当時、日露双方とも、ウルップ島を含めてその北方の島々を千島列島と理解していた」とする主張が出てきた。外務省のパンフレットにおいても、「日本政府も国会審議などで、国後、択捉両島は日本固有の領土であって、サンフランシスコ平和条約で放棄した『千島列島』には含まれないという見解を繰り返し明らかにしてきています」[13]といった主張がなされている。しかし、オランダ語正文、ロシア語、脱字を補った漢文を見ると、ウルップ島以北は千島列島の一部と解されるので、クナシリ島、エトロフ島も千島列島ということになる。

資料・サンフランシスコ平和条約（1951 年 9 月 8 日）第 2 条 c 項[14]

Article 2

(c) Japan renounces all right, title and claim to the Kurile Islands, and to that portion of Sakhalin and the islands adjacent to it over which Japan acquired sovereignty as a consequence of the Treat of Portsmouth of September, 5,1905.

第二条

(c)日本国は、千島列島並びに日本国が千九百五年九月五日のポーツマス条約の結果として主権を獲得した樺太の一部及びこれに近接する諸島に対するすべての権利、権原及び請求権を放棄する。

2.5. 皇帝アレクサンドル 1 世の 1821 年 9 月 4 日付（露歴）勅令第 1 条[15]

他方で、当時のロシア帝国は、千島列島の南端はウルップ島であり、国後島、択捉島を千島列島には含めていなかったという解釈が成り立つ文書もある。

---

[10] 外務省記録局『締盟各国条約彙纂』第 1 編、外務省記録局、1889 年、585-589 頁（国立国会図書館近代デジタルライブラリー http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/798309　コマ番号 309）。また、外務省『われらの北方領土　資料編』2023 年版（https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100646947.pdf）、17 頁も参照。

[11] ロシア語からの日本語訳は上野による。

[12] 正式には「日本国との平和条約」。

[13] 外務省『われらの北方領土　本編』2023 年版（https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100646946.pdf）、11 頁。

[14] 日英対訳は外務省ホームページの PDF 版を参照（https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/pdfs/B-S38-P2-795_1.pdf）。

[15]『ロシア帝国法令全書』第 1 集第 37 巻、1821 年の項、904 頁（Полное собрание законов Российской империи, т. XXXVII, 1821 г., с. 904）。なお、該当頁には頁番号が 904 と付されているが、ロシア国立図書館電子ライブラリーでは、904 頁ではなく、824 頁（страница № 824）である（http://www.nlr.ru/e-res/law_r/show_page.php?page=824&root=1/37/）。

Сентября 4. Именный, данный Сенату. 9 月 4 日。元老院に提出された勅令。

（中略）

Постановление правил о пределах плавания и порядка приморских сношений вдоль берегов Восточной Сибири, Северо-Западной Америки и Островов Алеутских, Курильских и проч.

東シベリア、北西アメリカ、ならびにアレウト（アリューシャン）列島および千島列島その他の沿岸の航行範囲および沿岸交渉についての規則の決定。

§1. Производство торговли китовой и рыбной ловли и всякой промышленности на островах, в портах и заливах и вообще по всему Северо-Западному берегу Америки, начиная от Берингова пролива до 51° Северной широты, также по островам Алеутским и по Восточному берегу Сибири; так как по островам Курильским, то есть начиная от того же Берингова пролива до Южного мыса острова Урупа, и именно до 45°50' Северной широты предоставляется в пользование единственно Российским подданным.

第 1 条　ベーリング海峡から北緯 51 度までのアメリカの全北西岸、アリューシャン列島、同じくベーリング海峡から千島列島、すなわち北緯 45 度 50 分までのウルップ島南岬までのシベリア東岸の島々、港、湾における、捕鯨および漁獲の交易の実施、ならびにあらゆる狩猟の実施は、もっぱらロシア臣民の利用に供される。

28.747.—Сентября 4. Именный, данный Сенату.—*О приведеніи въ исполненіе постановленія о предѣлахъ плаванія и о порядкѣ приморскихъ сношеній вдоль береговъ Восточной Сибири, Сѣверо-Западной Америки и островъ Алеутскихъ, Курильскихъ и прочихъ.*

Усмотрѣвъ изъ представленныхъ Намъ свѣдѣній, что торговля Нашихъ подданныхъ на островахъ Алеутскихъ и по берегамъ Сѣверо-Западной Америки, Россіи подвластнымъ, подвергается разнымъ стѣсненіямъ и неудобствамъ отъ постояннаго и подложнаго торга, и нахо-

да, что главною причиною сихъ неудобствъ есть недостатокъ правилъ, установляющихъ предѣлы плаванія вдоль сихъ береговъ и порядокъ приморскихъ сношеній какъ въ сихъ мѣстахъ, такъ и вообще по Восточному берегу Сибири и островамъ Курильскимъ, признали Мы нужнымъ опредѣлить сіи сношенія особеннымъ постановленіемъ, при семъ прилагаемымъ.

Препровождая постановленіе сіе въ Правительствующій Сенатъ, Повелѣваемъ: обнародовавъ оное для всеобщаго свѣденія, о приведеніи его въ исполненіе, учинить надлежащія распоряженія.

Постановленіе правилъ о предѣлахъ плаванія и порядка приморскихъ сношеній вдоль береговъ Восточной Сибири, Сѣверо-Западной Америки и Островов Алеутскихъ, Курильскихъ и проч.

§ 1. Производство торговли китовой и рыбной ловли и всякой промышленности на островахъ, въ портахъ и заливахъ и вообще по всему Сѣверо-Западному берегу Америки, начиная отъ Берингова пролива до 51° Сѣверной широты, также по островамъ Алеутскимъ и по Восточному берегу Сибири; такъ какъ по островамъ Курильскимъ, то есть, начиная отъ того же Берингова пролива до Южнаго мыса острова Урупа, и именно до 45° 50' Сѣверной широты предоставляется въ пользованіе единственно Россійскимъ подданнымъ.

§ 2. По сему, воспрещается симъ всякому Иностранному судну нетолько приставать къ берегамъ и островамъ, подвластнымъ Россіи, въ предъидущей статьѣ означеннымъ; но и приближаться къ онымъ въ разстояніи менѣе ста Италіанскихъ миль. Нарушившій сіе запрещеніе подвергается конфискаціи со всѣмъ грузомъ.

§ 3. Изъ сего правила изъемлются суда: или бурею занесенные, или совершеннымъ недостаткомъ съѣстныхъ припасовъ принужденныя пристать къ берегу, буде для сего не могли они сыскать другаго мѣста, кромѣ береговъ Россіи принадлежащихъ; въ такихъ случаяхъ обязываются оныя представить доказательства дѣйствительности причинъ, для таковаго изключенія. Корабли посланные отъ дружественныхъ Державъ, единственно для распространенія познаній, равномѣрно изключаются изъ предъидущаго правила; (§ 2) въ семъ однакожъ случаѣ они должны предварительно обезпечить себя паспортами, выданными отъ Россійскаго Морскаго Министра.

§ 4. Иностранные купеческіе суда по причинамъ въ предъидущей статьѣ изъясненнымъ, пристанутъ къ берегамъ выше сего означеннымъ, обязаны стараться избирать мѣсто, гдѣ находится Россійское селеніе и поступать, какъ ниже постановлено.

§ 5. На встрѣчу приближающемуся купеческому Иностранному кораблю, буде позволитъ время, имѣетъ быть высланъ Лоцманъ, который укажетъ якорное мѣсто для таковыхъ назначеній; Капитанъ или Шкиперъ вопреки сему показанію лоцмана, занявшій другое мѣсто, если не можетъ представить на то мѣстному начальству уважительныхъ причинъ, платитъ штрафу сто піастровъ.

§ 6. Всѣ гребныя суда Иностранныхъ торговыхъ судовъ, должны приставать къ берегу къ одному опредѣленному для сего мѣсту, подлѣ котораго вывѣшивается днемъ бѣлой флагъ, а ночью фонарь, гдѣ безпрестанно находиться будетъ надсмотрщикъ, долженствующій наблюдать, чтобы не было тайныхъ привозовъ, ни вывозовъ ни какимъ вещамъ или товарамъ, кто вопреки сему пристанетъ не въ опредѣленномъ мѣстѣ, хотябъ то было и безъ намѣренія тайнаго привоза, съ того взыщется 50 піастровъ; а если кто товары или какія вещи свезетъ на берегъ, то взыщется 500 піастровъ и товары или вещи конфискуются.

§ 7. Командиры означенныхъ кораблей, ну-

РОССИЙСКАЯ ГОСУДАРСТВЕННАЯ БИБЛИОТЕКА